News Release

独立行政法人 製品評価技術基盤機構
法人番号　9011005001123

2026年11月26日

「いつもの除雪」が命に関わる事故に
～家族とともに安全な使い方の確認を～

除雪機は、積雪地域における除雪作業の負担を軽減する便利な製品ですが、使い方を誤ると死亡や重傷に至る事故につながるおそれがあります。独立行政法人製品評価技術基盤機構［NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原］は、雪のピークを迎える前に、除雪機の事故を防ぐための注意喚起をします。



誤った使用により除雪機のオーガ（回転部）に巻き込まれた様子



誤った使用により除雪機の下敷きになった様子

2016年度から2025年度までの10年間にNITEに通知された製品事故情報[※1]では、除雪機により人的被害があった事故は35件ありました。

それらの事故の8割（35件中28件）が使用者の誤使用や不注意によるものです。誤使用や不注意の事故のうち9割以上（28件中27件）が死亡や重傷を伴う重大な事故に至っています。また、全体の事故35件のうち60歳以上の高齢者による事故が6割以上を占めています。

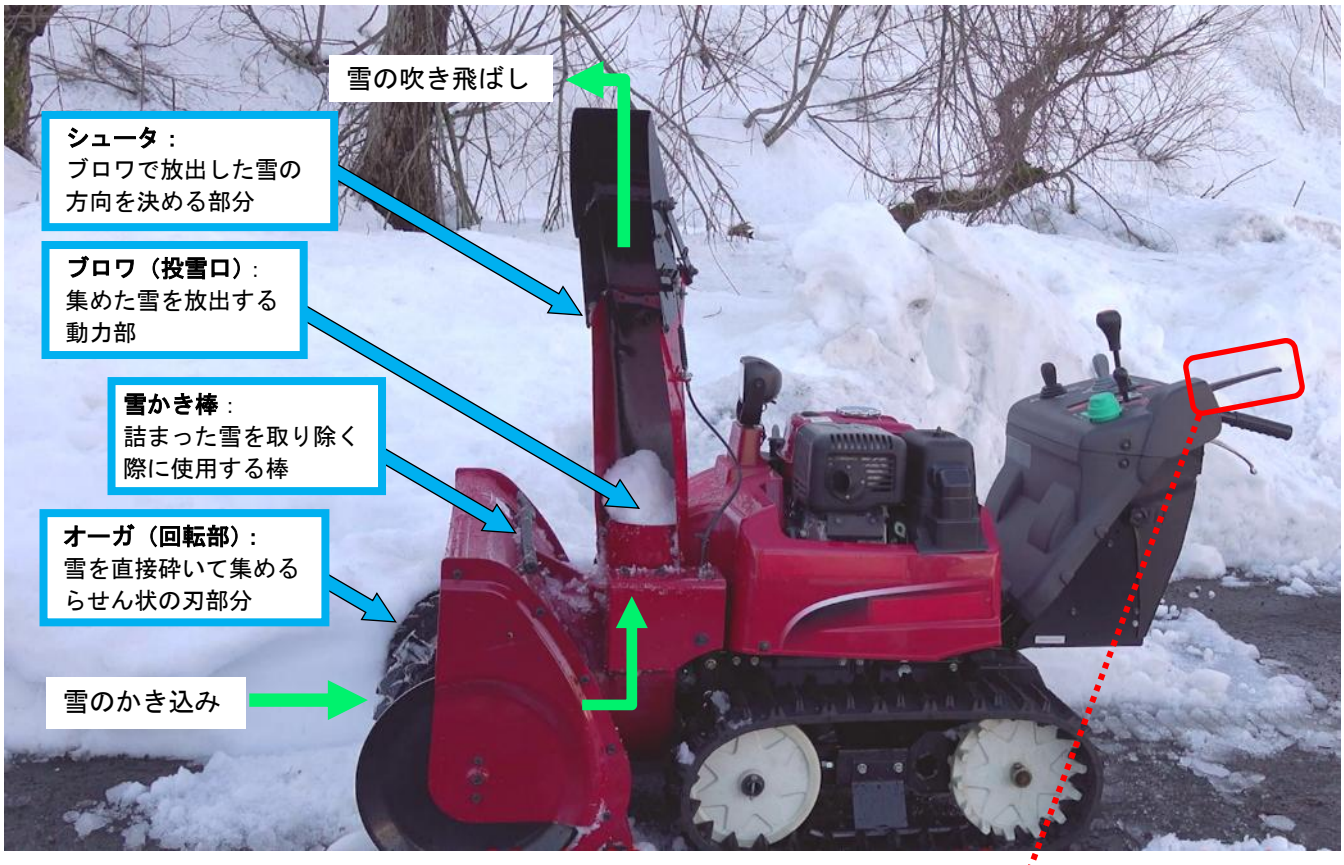
除雪機による事故を防ぐためには、使用者本人が安全な使い方を理解することに加え、ご家族や地域の方々が事故防止のポイントを共有することも重要です。これから本格的な降雪シーズンを迎えるにあたり、NITEは除雪機による事故の事例と事故防止のポイントを紹介し、注意喚起を行います。

■除雪機を使用する際のポイント

〇安全機能を無効化しない。
〇後進する際に、転倒したり挟まれたりしないよう、周囲の状況に注意する。
〇人が近くにいる時は使用しない。エンジンをかけたまま離れない。
〇雪詰まりを取り除く際は絶対に手を入れない。
〇屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしない。

（※）　本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。
（※1）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

１.除雪機の構造と各部名称



■デッドマンクラッチ機構（安全機能）

使用者が操作ハンドル（クラッチレバー）から手を離すと、自動的にオーガ（回転部）及び走行が停止する安全機能。使用者の手を離れて作動することを防ぐもの。

※ 2004 年 4 月から、除雪機安全協議会加盟メーカーの除雪機（歩行型）においては、デッドマンクラッチ機構を標準装備としています。その他の安全機能については別紙 1 をご参照ください。



２.事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2016 年度から 2025 年度までの 10 年間に発生した除雪機により人的被害があった事故 35 件について、発生状況を示します。

2-1. 年度別の事故発生件数

除雪機により人的被害があった事故 35 件について、「年度別の事故発生件数」を図 1 に示します。2023 年度に 0 件になったものの、2024 年度に再び事故が発生しました。降雪量が増え、使用機会が増えると事故件数も増加するおそれがあります。事故の 9 割以上（35 件中 32 件）が、死亡又は重傷に至っており、注意が必要です。

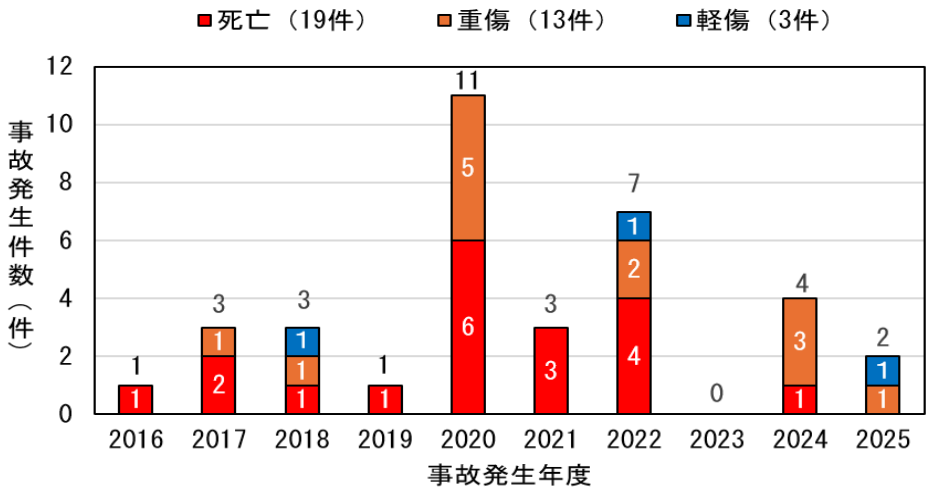


図１　年度別の事故発生件数

2-2. 原因別の事故発生件数

除雪機により人的被害があった事故 35 件について、「原因別の事故発生件数」を図 2 に示します。8 割（調査中の案件を除くと約 9 割）が安全機能を無効化するなど「誤使用や不注意と推定されるもの」の事故となっています。誤使用や不注意による事故で多くの死亡・重傷事故が発生しています。

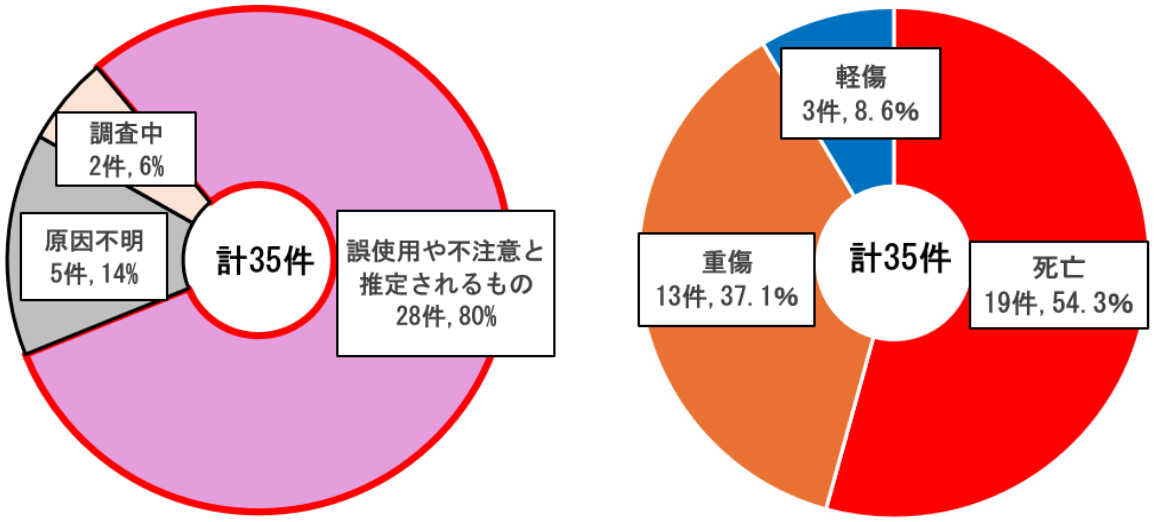


図２　原因別の事故発生件数及び「誤使用や不注意と推定されるもの」の被害状況

2-3. 事故事象別・被害状況別の事故発生件数

除雪機により人的被害があった事故 35 件について、「事故事象別・被害状況別の事故発生件数」を表に示します。死亡事故は「除雪機の下敷きになった」、「除雪機のオーガ（回転部）に巻き込まれた」の 2 つの事象で多く発生し、重傷事故は「除雪機のブロワ（投雪口）に手を入れた」事象で多く発生しています。

表　事故事象別・被害状況別の事故発生件数　（ []内は誤使用や不注意と推定されるもの）

事故事象	死亡		重傷		軽傷		総計	
除雪機の下敷きになった	10	[8]	1	[1]			11	[9]
除雪機のオーガ（回転部）に巻き込まれた	6	[5]	1	[1]	1		8	[6]
一酸化炭素中毒になった	2	[2]					2	[2]
除雪機と壁などの間に挟まれた	1	[1]			1	[1]	2	[2]
除雪機のブロワ（投雪口）に手を入れた			9	[7]			9	[7]
その他			2	[2]	1		3	[2]
総計	19	[16]	13	[11]	3	[1]	35	[28]

2-4. 都道府県別の事故発生件数

除雪機により人的被害があった事故 35 件について、「都道府県別の事故発生件数」を図 3 に示します。新潟県が最も多く、主に北海道や日本海側の豪雪地帯で多く発生しています。

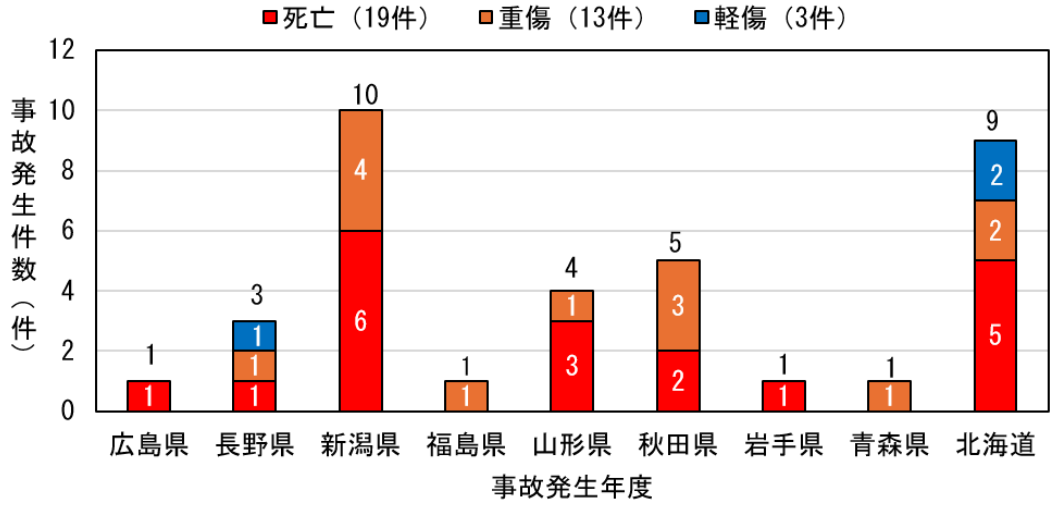


図 3　都道府県別の事故発生件数

2-5. 年齢別の事故発生件数

除雪機により人的被害があった事故 35 件について、「年齢別の事故発生件数」を図 4 に示します。被害者の多くが高齢者となっています。これは、豪雪地帯における除雪作業者の高齢化により、高齢者の除雪中の事故が増えているものと考えられます。事故に遭わないよう使用者本人のみが気を付けるだけでなく、離れて暮らしているご家族や周りの方々のサポート・お声がけもお願いします。

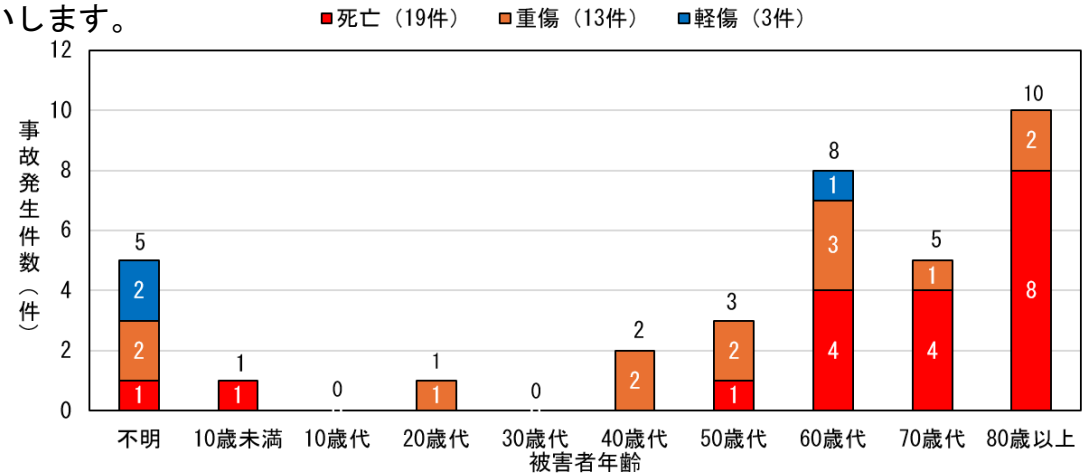


図 4　年齢別の事故発生件数

３.事故事例

■除雪機の下敷きになった事故
　事故発生年月　2024 年 12 月（新潟県、80 歳代・男性、重傷）
【事故の内容】
　除雪機を使用中、転倒し当該製品の下敷きになり重傷を負った。
【事故の原因】
　事故発生時の詳細な状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、当該製品で後進中に使用者が転倒し、当該製品の下敷きになったものと推定される。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
　除雪機　安全装置　下敷き

■除雪機のオーガ（回転部）に巻き込まれた事故
　事故発生年月　2025 年 2 月（北海道、90 歳代・男性、死亡）
【事故の内容】
　除雪機を使用中、当該製品のオーガ（回転部）に巻き込まれた状態で発見され、死亡が確認された。
【事故の原因】
　当該製品の動作確認ができず、事故発生時の詳細な状況は不明であるが、デッドマンクラッチを固定して無効化した状態で後進させたため、転倒した際、緊急停止することなく当該製品に巻き込まれたと推定される。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
　除雪機　デッドマンクラッチ　無効化

■一酸化炭素中毒になった事故
　事故発生年月　2023 年 1 月（北海道、80 歳代・男性、死亡）
【事故の内容】
　物置で当該製品を使用中、一酸化炭素中毒で１名が死亡した。
【事故の原因】
　使用者が十分な換気のない屋内で当該製品を使用したため、排気ガスにより屋内の一酸化炭素濃度が上昇し、一酸化炭素中毒に至ったものと推定される。
　なお、本体及び取扱説明書には、「屋内や換気の悪い場所では使用しない。排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故に至るおそれがある。」旨、記載されている。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
　除雪機　屋内　一酸化炭素中毒

■除雪機のブロワ（投雪口）に手を入れた事故
　事故発生年月　2022 年 12 月（秋田県、50 歳代・女性、重傷）
【事故の内容】
　当該製品を使用中、ブロワ（投雪口）に詰まった雪を取り除こうとしたところ、左手指を負傷した。
【事故の原因】
　当該製品のエンジンをかけたまま、ブロワ（投雪口）に手を入れたことにより、ブロワで指を負傷したものと推定される。
　なお、取扱説明書に「詰まった雪を取り除くときは必ずエンジンを停止してから行う。」旨、記載されている。
【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】
　除雪機　詰まった雪　手

４.気を付けるポイント

除雪機を使用する際のポイント

〇安全機能を無効化しない。

デッドマンクラッチ機構のクラッチレバーを固定したり、緊急停止クリップを装着せずに使用したりするなど、安全機能の無効化は絶対にしないでください。安全機能を無効化すると、使用者が転倒などした際に除雪機が停止せず、除雪機の下敷きになったり、巻き込まれたりするおそれがあります。



クラッチレバーを固定して
安全機能を無効化する様子



デッドマンクラッチ機構により
手を離すと停止する様子

〇後進する際に、転倒したり挟まれたりしないよう、周囲の状況に注意する。

後進する際は、足下や後方の障害物を確認し、十分注意して走行してください。転倒して除雪機の下敷きになったり、障害物に挟まれたりするおそれがあります。



周囲を確認せず後進している様子



足下や後方を確認しながら後進している様子

〇人が近くにいる時は使用しない。エンジンをかけたまま離れない。

除雪作業をする際は、周囲に人がいないことを確認してください。特に背丈の低いこどもは死角に入りやすいので、十分気を付けてください。また、除雪機のエンジンをかけたままその場を離れると、こどものいたずらなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。一時的にその場を離れるときでも、必ずエンジンを切ってください。



近くで遊んでいるこどもに気付かずに
除雪作業をする様子



死角に人がいないか確認する様子

〇雪詰まりを取り除く際は絶対に手を入れない。

エンジンをかけたまま雪を取り除く作業を行うと、手を負傷するおそれがあります。雪が詰まった場合は、直接手で行わず、必ず備え付けの雪かき棒を使用して取り除いてください。



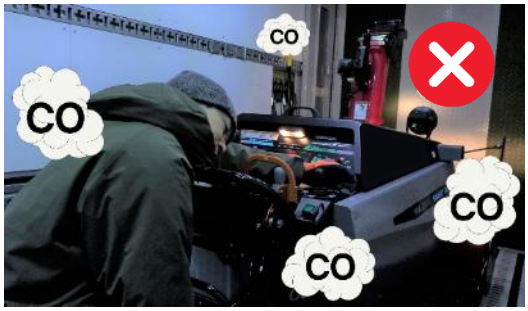
エンジンをかけたまま、手で
詰まった雪を取り除く様子



エンジンを切り、雪かき棒を使用して
詰まった雪を取り除く様子

〇屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしない。

作動中の除雪機の排気には一酸化炭素が多く含まれています。一酸化炭素は無色・無臭で、発生に気が付きにくく、また非常に毒性の強い気体です。閉め切った屋内で除雪機のエンジンをかけたままにすると、短時間で一酸化炭素の濃度が高くなり非常に危険です。除雪機は始動／停止も含め風通しの良い屋外で使用しましょう。エンジンを切った状態で、手で押して移動できない大型の除雪機等の場合は、窓などの開口部を開放して十分な換気が取れていることを確認してから、「屋内で始動し速やかに屋外に出る」、「屋内にしまったら速やかにエンジンを切る」などの対策をしてください。



換気されていない屋内でエンジンをかけた
ままにして一酸化炭素中毒になった様子



換気を確保して除雪機を移動させる様子

事故事例を確認【NITE SAFE-Lite（ナイト　セーフ・ライト）のご紹介】

〇過去にどのような事故が発生しているか確認する。

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite（ナイト　セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。

SAFE-Lite

https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html

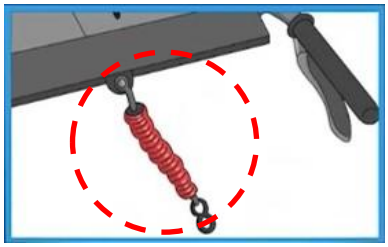
お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構　製品安全センター　所長　川崎　裕之
担当者　製品安全広報課　山副　敦司、藤原　翔吾
Mail　：ps@nite.go.jp　　Tel　：06-6612-2066

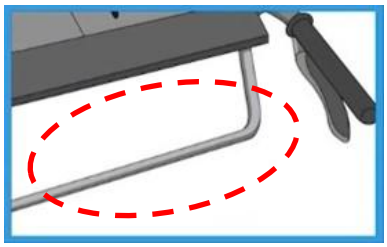
（別紙 1）

【参考情報】デッドマンクラッチ機構以外の安全機能

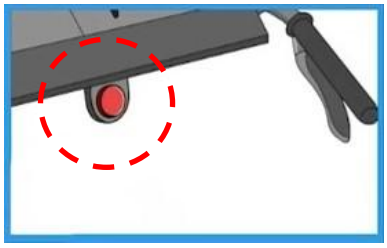
製品によっては以下のような安全機能も備わっています。



緊急停止クリップ：
使用者が装着しておくことで、使用者の体が除雪機から離れるとコードが除雪機から外れてエンジンが停止し、回転部及び走行が停止する安全機能。使用者が転倒した際や除雪機から離れた状態で作動することを防ぐもの。



緊急停止バー：
人が挟まれそうになった際などにバーが押されるとクラッチが切れ、機械が停止する安全機能。ハンドル付近に設置される上部緊急停止バーと、足下付近に設置される下部緊急停止バーがある。



緊急停止ボタン：
ボタンを押すと機械が停止する安全機能。

（イラスト出典：除雪機安全協議会「歩行型除雪機の安全啓発動画」（更新日：令和元年 10 月））
http://www.jfmma.or.jp/jyoankyo.html



壁に挟まれた際に上部緊急停止バーが押され
後進が停止する様子



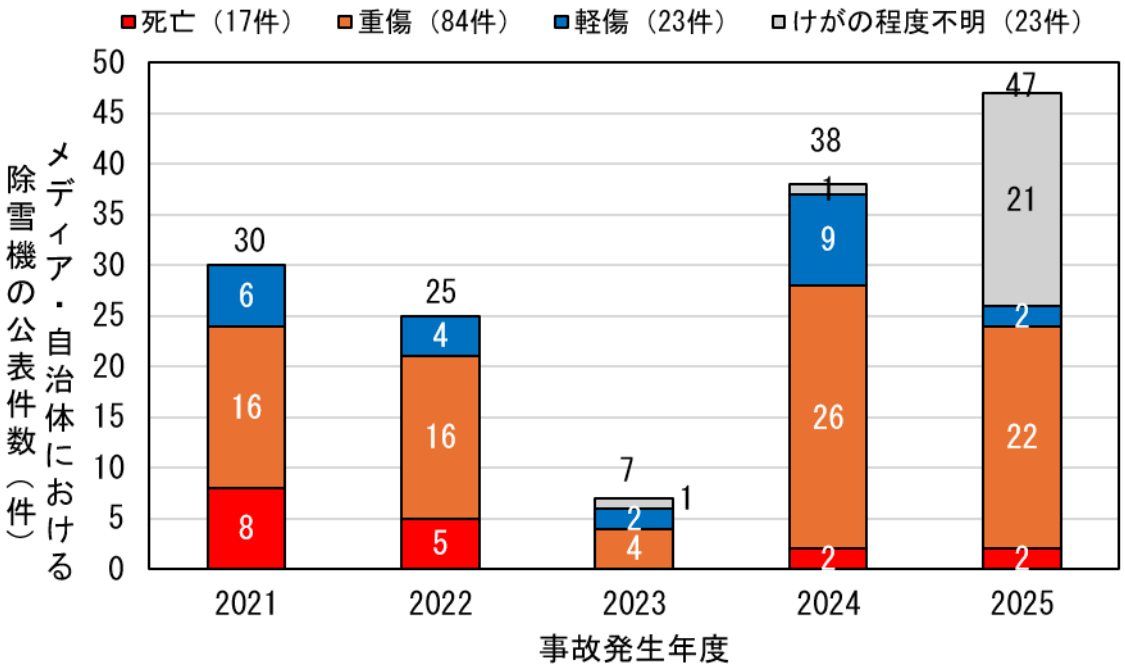
転倒した際に下部緊急停止バーが押され
後進が停止する様子

なお、除雪機安全協議会では、車両重量 350kg 以上の歩行型ロータリ除雪機において、デッドマンクラッチ機構以外の安全装置の多角化のため、①挟圧防止（「挟まれ」対策）、②後進時非常停止（「ひかれ」対策）、③始動安全装置（「ひかれ」及び「挟まれ」対策）、④後進速度制限（「ひかれ」及び「挟まれ」対策）に関する装置を備えることを要件化した SSS 規格を 2021 年 6 月に改定しました。2023 年度生産分から適用されています。

（別紙 2）

メディア・自治体における除雪機事故の公表件数

製品起因ではないことが明らかな事故は NITE に通知されません。そこで、NITE がメディア・自治体のインターネット上での公表情報を基に収集した、「年度別の事故発生件数※」を図 1 に示します。2021 年度から 2025 年度までの 5 年間で少なくとも 147 件の事故が発生しており、NITE の製品事故情報（同期間で 15 件）は世の中で発生している事故の氷山の一角であり、決して珍しい事故ではないということが分かります。



（※）人的被害があった事故を対象としています。事故発生状況が不明な情報（各自治体が統計データとして集約していて、事故ごとの内容が不明なもの）は除きます。